

競 技 注 意 事 項

本大会は、2026年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項によって行う。

1 練習について

練習は、メイン競技場および雨天練習場を原則とする。ただし、競技の準備を優先する。道具（メディシンボール、マーカー、ミニハードル、ラダー等）を使用した練習はできない。投てき競技（砲丸投・円盤投・やり投）の練習については、競技開始前にメイン競技場を使用すること。係員の指示に従って行うこと。

各練習場所では以下の注意事項を遵守すること。

<メイン競技場の使用について>

①開場時刻から8：30まで使用することができる。

②レーンの使用については以下の通りである。

- ・1～2レーンは周回練習のみ使用可とする。
- ・3～4レーンは短距離練習のみ使用可とする。
- ・ハードル練習については、メインスタンド前で6・7レーンは女子100mH、8・9レーンは男子110mHを利用してハードルは5台までとする。400mHの練習は、スタートからバックスタンド前及び第3コーナーまでとし女子は6・7レーン、男子は8・9レーンを利用してハードルは5台までとする。
- ・スターティングブロックを利用した練習は、100mスタート付近の5レーン、第1曲走路の5レーンからのみとする。

③レーンをまたいで移動する際は、安全に注意すること。

④競技開始後の使用については競技優先とする。バックストレートが空いている時は、直走路を使用しての練習を認めるが、競技中の棒高跳に配慮して8・9レーンは使用しない。競技場内への出入りは第2ゲートから行う。

<雨天練習場の使用について>

①雨天練習場でのピストルの使用は禁止する。

②雨天練習場へは、第2ゲート側の入り口より入場することができる。第3ゲートからの出入りは禁止する。

③シート等を敷いて独占的な使用をすることを絶対にしない。

④ウォーキング・ジョギングなどペースが著しく遅いウォーミングアップまたは、動きづくり程度の練習は行ってもよい。

⑤ウォーキング・ジョギング等は、左回りとし、逆走はしない。

⑥ハードルは使用できない。

<棒高跳・投てき（砲丸投、円盤投、やり投）について>

①棒高跳は競技開始60分前から現地にて跳躍練習を行うことができる。

②砲丸投、やり投は競技開始50分前から現地にて投てき練習を行うことができる。

③円盤投は競技開始60分前から現地にて投てき練習を行うことができる。

ただし、他の競技に影響がでないように、審判員の指示に従うこと。

2 スパイクシューズの制限について

全天候競技場であるため、スパイクの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以下とする。

3 アスリートビブスについて

- ①アスリートビブスは指定された数字が明瞭に見えるように、ユニフォームの胸と背につけること。ただし、跳躍競技（走高跳・棒高跳・走幅跳・三段跳）に出場する競技者はどちらか一方でもよい。
- ②トラック競技に出場する競技者は、主催者が準備した腰ナンバー標識を必ずパンツの左右横や後方につけること。
- ③3000m以上の種目は別ナンバーカードを使用する。別ナンバーカードは招集所にて配布する。

4 招集について

- ①招集場所は、第2ゲート付近とする。
- ②招集時刻は競技時間を確認すること。
 - ※1：棒高跳、投てき（砲丸投、円盤投、やり投）は、現地で招集を行う。
 - ※2：参加人数の多い種目については、段階的に招集を行うので、競技時間に記載している招集開始時刻、招集完了時刻を確認すること。
- ③招集完了時刻に遅れた競技者は棄権とみなす。
- ④リレーのオーダー表は招集完了時刻1時間前までに提出のこと。
- ⑤2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、あらかじめ競技者係に申し出る。

5 競技について

- ①競技順は、プログラム記載の番号順とする。
- ②その競技をする競技者以外は、トラックおよびフィールド内に立ち入ることはできない。
- ③トラック競技の各レースでの不正スタートは1回目からすべて失格とする。
- ④スターターの合図は英語とする。（「On your marks」、「Set」）
- ⑤短距離走では競技者の安全のため、決勝線到着後も自分に割り当てられた走路を走ること。
- ⑥レーンで行う競技種目で棄権者があった場合は、そのレーンをあける。
- ⑦競技場内での跳躍、投てきの練習は、審判員の指示によって行う。
- ⑧跳躍・投てき種目の試技は3回とする。
- ⑨競技者は、携帯電話等の通信機器・ビデオ・デジタルカメラ等を競技エリア内に持ち込むことはできない。コーチエリア付近（エリア指定あり）で競技者に手渡して映像を見せることができる。ただし、メインスタンドでは禁止する。競技者が指定エリア外に機器等を持ち込むことはできない。コーチエリアでのコミュニケーションが終了したら、速やかにコーチエリアから出ること。

6 競技用具について

- ①競技に使用する用具は、主催者が用意したものを使わなければならない。ただし、やりは検査において合格したものに限り使用が認められる。個人所有のポールの検査は最終点呼時に跳躍審判が行い、やりの検査は競技開始60分前に第1ゲート付近にて実施する。
- ②練習用としても、個人の用具を競技場に持ち込んではいならない。

7 競技場への入退場について

種目別入退場口は下記の通りとする。各ゲートへは競技場外周を利用して移動すること。

第1ゲート：第1コーナー付近からスタートするトラック競技・1500m

第2ゲート：棒高跳・投てき種目

第3ゲート：走高跳

第4ゲート：100m付近からスタートするトラック競技および走幅跳、三段跳、200m・5000m

8 跳躍競技について

①走高跳・棒高跳のバーの上げ方は、下記の通りである。

		練習			
走高跳	男子	135	140～180まで5cm刻み	180cm以降3cm刻み	195cm以降2cm刻み
	女子	120	125～145まで5cm刻み	145cm以降3cm刻み	166cm以降2cm刻み
棒高跳	男子	200	221～341まで20cm刻み	341cm以降10cm刻み	/
	女子	150	161～221まで20cm刻み	221cm以降10cm刻み	

②三段跳の踏切板の位置は、男子11m00、女子9m00とする。

9 その他

- ①やむを得ず棄権するときは、競技者係まで必ず届け出ること。
- ②応急処置を要する健康上の問題が発生したときは、スタンド下の救護室に連絡すること。
- ③更衣室については、メインスタンド内1階にあるので利用してもよい。
- ④**記録の掲示については、競技終了後、大型映像で表示する。**競技場メインスタンド下、正面玄関付近での記録掲示は行わない。なお、記録速報を愛媛陸協HPから確認できる。